

平成27年度 村上市生活科部会 活動報告

部長 鈴木 美保子

1 研究主題

子どもが楽しんで活動する生活科授業の工夫

2 研究の概要

4月28日(火) 第1回生活科部会 部長選出 計画立案 会場:村上市総合文化会館

8月7日(金) 第2回生活科部会 理科センター研修会への参加

「うごくおもちゃをつくろう」 岩船小 小野澄江教諭

7月21日(火) 第3回生活科部会 指導案検討会

11月6日(金) 第4回生活科部会 授業研究会

「遊びにいろいろよ～あきとあそぼう～」 砂山小 鈴木禎子教諭

3 研究の実際

(1) 研修1 第2回生活科部会 理科センター研修会

①研修内容

身近にある物を使って、遊びに使う物を工夫して作る「うごくおもちゃをつくろう」の授業実践が報告された。製作過程での工夫や友だちとの関わりを引き出すために、「①材料の準備と学習の場の工夫」「②改良前の予想」「③ワークシートの記入・拡大図へのネームプレート貼り付け」「④友達との関わり合い」「⑤教師の支援」の5点が指導計画に位置付けられていた。

②実習

参加者全員でうごくおもちゃを製作し、完成した物を実際に動かした。

(2) 研修2 第4回生活科部会 授業研究会

校庭や、松林で木の葉や木の実を拾い、探してきた物を使って楽しく遊べる「秋の宝物」を作っていく。その際に、自分が作った物をさらによくするために、作り方や遊び方を工夫したり、友だちと教え合ったりしながら、楽しく作ることをねらいとした授業であった。

〈協議会から〉

○導入で、前時に作ったどんぐりごまがうまく回らない子どもや松ぼっくり剣玉がうまく入らない子どもに困っていることを出させた。それに対するアドバイスを他の子どもに発表させたことで、本時の見通しをもたせることができた。改良のポイントを示した板書が分かりやすく、大変効果的であった。

○子どもの気付きや思いをつなぐ教師の支援が素晴らしかった。製作場面では、主体性を大切にしながらも困っている子どもへさりげなく支援をし、活動を活性化させていた。

○材料、用具等の環境が整っていて子どもたちの活動を豊かにしていた。

○1年生にとって、改良することは難しい。しかし、活動している友だちの様子を見て同じにしてみたり、友だちができるようになると一緒に喜んだりする姿が見られたので、1年生の関わり合いとしては十分だった。

4 成果と課題

○体験型の研修と授業研修の2つができて充実したものになった。それぞれの研修で学んだことを日々の授業に生かしていきたい。

○部会では意見交換や情報交換などが行われ、大変参考になった。さらに、部会以外でも材料の準備の際の協力があり大変助かった。この部員間のネットワークをこれからも大切にして、地域に根ざした生活科を実践できるよう、活動を工夫していきたい。

